

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科				
科目名称	特別活動論				授業形態	講義			
科目コード	410910	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	岩田 賢士							ICT活 用	○
授業概要	特別活動は、各教科・専門科目の指導と異なり、教科外活動に位置づけられ、ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事等の望ましい集団活動を通して、生徒が心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、人間としての在り方生き方の醸成に教育の目標をおいている。 本授業では、高等学校勤務35年間の中で実践した特別活動の経験を生かし、また、学生諸君が小中高校と体験した特別活動の思い出を活用しながら学習を進める。 それらの学習を通して、特別活動の種類と内容、特別活動に関する指導方法等を学ぶ。さらに、特別活動の意義と重要性を理解し教員としての資質向上を図る。”								
関連する科目	“主に特別活動の領域が、ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事から成るため、青年心理学・生徒指導&進路指導・教育概論・倫理学など幅広い科目の学習が必要である。”								
授業の進め方 と方法	○一斉授業・・・各講義毎に授業資料を作成し、それを活用して授業を進め、必要に応じてディスカッションをする。 ○ワークショップ・・・課題を提示してグループ活動を行う。（グループ討議・発表・意見交換） 講義内容を考えて、ワークショップを多く導入。発表には模造紙等も活用する。 ○視聴覚機器（ICT）の利用・・・DVD・動画・スライドを活用する。映像から課題を提示し、グループ討議や感想文を書かせる。 ※今まで主に中・高校で経験した特別活動を念頭に置き、理論的な背景を一斉授業で学習し、特別活動を行う上で課題についてワークショップや視聴覚教材を活用した授業を進める。”□								
授業計画 【第1回】	I 特別活動の概要 特別活動とは：特別活動の内容と必要性について学ぶ。 ・DVD視聴（3年間の学校生活・スティーブジョブズの卒業式式辞）								
授業計画 【第2回】	2 特別活動の概要 特別活動の法的位置付けと学習指導要領との関係性について学ぶ。								
授業計画 【第3回】	3 特別活動の目標 高等学校学習指導要領（特別活動）の目標について学ぶ。								
授業計画 【第4回】	4 特別活動の教育課程上の位置付け 学習指導要領上における特別活動の変遷と教育的意義について学ぶ								
授業計画 【第5回】	II 学校行事 5 学校行事① DVD視聴 学校行事の具体的な一例（北海道立北見北斗高等学校 強行遠足）を視聴し、その行事の目的・意義や企画運営にうちて考える。								
授業計画 【第6回】	6 学校行事②：事例の検討とまとめ 北見北斗高等学校の強行遠足を通して検討した内容を図に表す。								
授業計画 【第7回】	7 学校行事③：学校行事の分類 検討内容の発表（図表を活用）と経験した学校行事をその行事の目的に応じて分類する。								
授業計画 【第8回】	8 学校行事④：学校行事のまとめとファームステイ報告 改めて学校行事の目的・意義を学習指導要領から学ぶ。ドイツファームステイを振り返り海外に興味を持つ。								
授業計画 【第9回】	III 生徒会活動 9 生徒会活動①：生徒会の役割と活動内容 生徒会の役割と活動内容に関して、自分の経験を思い出し討論し、まとめた物を発表する。								
授業計画 【第10回】	10 生徒会活動②：生徒会活動とは 生徒会の目的・意義・内容について、学習指導要領から考える。 ※ICTを活用する。								

授業計画 【第11回】	11 生徒会活動③：生徒会活動と部活動 同じ教科外活動の位置づけである部活動と生徒会活動の関係性について学ぶ。 ※動画(プロジェクトX)を視聴し、そのことを活用して授業を進める。
授業計画 【第12回】	IV ホームルーム活動 12 ホームルーム活動①：ホームルームの思い出と年間LHR 計画の検討
授業計画 【第13回】	13 ホームルーム活動②：年間LHR 計画作成 年間LHR計画表を学年に応じた内容で、グループ毎に作成する。
授業計画 【第14回】	14 ホームルーム活動③：年間LHR 計画の発表とホームルーム活動の種類 各班が作成した年間授業計画表を発表し、ホームルーム活動の重要性を学ぶ。 学習指導要領に記述されているホームルーム活動の目標・意義・内容を確認する。
授業計画 【第15回】	V まとめ 15 特別活動のまとめ：今までの学習を振り返る。 特別活動が各教科・総合的な探求の時間・道徳・部活動などと有機的に繋がっていることを学ぶ。 KJ法や学級通信の活用紹介。
授業の到達目標	“・教育基本法第1条(目的)を達成するために、学校教育の中で特別活動がどの様に位置付けされているかをしっかりと認識する。 ・高等学校の特別活動には、ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事があり、その目標と学習内容を理解する。 ・ワークショップや発表の機会を通して、他者とのコミュニケーション能力や表現力の向上を図る。 ・これらの授業をホームルーム経営能力の一助とし、将来の教員としての指導力向上を図る。”
学位授与の方針 (DP)との関連	1.知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1.知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2.汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(2)
授業時間外学習【予習】	・この科目は、中学・高校時代に経験した内容が含まれるため、予習よりも復習に力を入れたいと考えている。 ・講義で学び、今まで自分が経験した事柄を有機的に繋げ理解を促すようにしたいため、予め指示された事柄について自分の体験を考 えることでよい。 ※事前に課題が指示された場合には、予習を行うようにする(適宜)
授業時間外学習【復習】	・各講義の内容を補完するために講義中に配布した参考資料を使って復習を行う。(毎週1時間程度) ・課題レポートの提出を求めるので、しっかりと調べ学習を行い自分の意見をまとめる。(毎週1時間程度) ・科目に関する課題を見つけ、書籍・インターネットを活用して解決する。関連する書物を読む(毎週1時間程度) ・ユニバで事前に送られてくる資料に関して取り組む(適宜) ・時間内に終了しない授業内容に関して、グループで助け合い、課題と解決する(適宜)
課題に対する フィードバック	○毎回講義後にレポートを提出させ、講義内容や授業に対しての質問等を書かせる。それを採点・回答して返却する。 ○小テストを実施し、それを採点后返却する。 ○グループ学習においては、全体発表後、課題に関する解説を入れたり、自己のコメントを入れる。 ○15回の講義が記載できる冊子を配布し、それを点検し、返却する。 ○個別事案については、個別に受ける。
評価方法・基準	★この講義に関しては、4／5以上の出席が望ましい。 1 学期末テスト・・・(40点) 2 毎回の提出レポート・・・(30点) 3 小テスト・課題レポート・・・(20点) 4 記録冊子・・・(10点)
テキスト	学習指導要領・学習指導要領解説
参考書	“・各講義毎に講義資料を作成し、それを配付する。 ・学習指導要領解説”
備考	